

放射線治療専門医の研修の実態に関するアンケート調査

1. 記入者に関する情報

このアンケートは放射線治療専門医の研修の実態に関するアンケート調査です。各施設の放射線治療研修の責任者の方が施設代表としてご回答願います（回答者の方のメールアドレス等をご記入ください）。

***必須**

1. メールアドレス *

2. 1-1 貴施設名

3. 1-2 本アンケート記入時において、貴施設が該当するものをすべてお答えください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 放射線科専門医総合修練機関
- 放射線科専門医修練機関
- 放射線科専門医特殊修練機関
- 日本放射線腫瘍学会認定施設
- がん診療連携拠点病院等

4. 1-3 診療科名

5. 1-4 役職

6. 1-5 回答者氏名

資料 6

7. 1-6 年 齡

1 つだけマークしてください。

- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- その他

2-1. 施設の体制
(1)

貴施設の放射線治療専門医を志す専攻医および放射線治療研修指導医の実情についておたずねします。

8. 2-1-1 貴施設において2019年度、2020年度、2021年度の放射線治療専門医試験を受験した専攻医の延べ人数は何名でしょうか。

9. 2-1-2 本アンケート記入時において、放射線科研修指導者のうち放射線治療専門医は何名勤務されておられますか。

2-2. 施設の体制
(2)

貴施設で行われているカンファレンスへの放射線治療医の参加状況をお尋ねします。下記の分類にないものにつきましては近似するものに置き換えてご回答ください。

10. 2-2-1 脳腫瘍カンファレンス

1 つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

資料6

11. 2-2-2 頭頸部腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

12. 2-2-3 乳腺腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

13. 2-2-4 肺癌カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

14. 2-2-5 上部消化管腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

資料6

15. 2-2-6 肝胆膵腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

16. 2-2-7 下部消化管腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

17. 2-2-8 泌尿器腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

18. 2-2-9 婦人科腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

19. 2-2-10 骨軟部腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

20. 2-2-11 骨転移カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

21. 2-2-12 血液腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

22. 2-2-13 皮膚腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

23. 2-2-14 小児腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

24. 2-2-15 総合腫瘍カンファレンス

1つだけマークしてください。

- 放射線治療医が必ず参加する
- 放射線治療医が時々参加する
- 放射線治療医が参加しない
- 開催されていない

3. 専
攻医
の診
療実
績に
つい
て
(1)

放射線治療専門医試験を受験する専攻医の診療実績について、貴施設にて現状で推定される「経験症例数」と「治療技術件数」をお尋ねします。

貴施設にて「放射線治療専門医を目指す専攻医1名が2年間で研修可能な症例数および技術件数」を推定して回答願います（過去の実績の実績ではありません）。研修不可能と推定される場合は0をご記入ください。

「経験症例数」については、一疾患の一病変に対する一連の放射線治療を1例（1連の放射線治療中に何種類の治療計画を行っても経験症例数は1例）としてカウントしてください。6か月以上の間隔を空けて別部位への放射線治療を行った場合には、一連の放射線治療とは考えず複数例としてカウントしてください。

「治療技術件数」については一連の治療計画数でカウントしてください。

例1) 外部照射50.4Gy/28回と腔内照射を3回併用した場合は症例数は子宮原発で1例、治療技術は密封小線源治療1件としてそれぞれカウント

例2) 前立腺癌のIMRT78Gy/39回を行った場合は前立腺原発で1例、治療技術はIMRT1件としてカウント（IMRTで再計画を行っても一連の治療として1件でカウント）

以下は現行制度の目標症例数です。参考にしてください。回答欄は経験数と治療技術が項目が分かれていますので上記の例を参照にご回答ください。

経験数	200例以上
脳/頭頸部	30例以上
胸部・乳腺	30例以上
腹部・骨盤部	30例以上
密封小線源治療	10例以上
特殊治療（IMRT、定位照射、全身照射、術中照射、小児、その他の特殊治療）	5例以上

3-1 脳/頭頸部への放射線治療経験症例数

25. 3-1-1 原発性脳腫瘍

26. 3-1-2 頭頸部腫瘍（咽頭・喉頭癌、唾液腺癌、副鼻腔癌）

27. 3-1-3 その他（上記以外での転移巣を含めた脳/頭頸部への照射）

3-2 胸部/乳腺への放射線治療経験症例数

28. 3-2-1 原発性肺癌

29. 3-2-2 食道癌

30. 3-2-3 乳癌

31. 3-2-4 その他（上記以外での転移巣を含めた胸部/乳腺への照射）

3-3 腹部/骨盤部への放射線治療経験症例数

32. 3-3-1 肝胆膵腫瘍

33. 3-3-2 胃・結腸直腸・肛門癌

34. 3-3-3 泌尿器腫瘍

35. 3-3-4 泌尿器腫瘍のうち、前立腺癌の症例数

36. 3-3-5 婦人科腫瘍

37. 3-3-6 婦人科腫瘍のうち、子宮頸癌の症例数

38. 3-3-7 その他（上記以外での転移巣を含めた腹部/骨盤部への照射）

3-4 四肢・皮膚等への放射線治療経験症例数

39。 3-4-1 転移巣を含めた四肢・皮膚への照射経験可能数

3-A 密封小線源治療の技術件数

40。 3-A-1 密封小線源治療

3-B 高精度放射線治療の技術件数

41。 3-B-1 強度変調放射線治療 (IMRT)

42。 3-B-2 定位放射線照射 (STI)

3-C 特殊治療の技術件数

43。 3-C-1 陽子線治療

44。 3-C-2 重粒子線治療

45。 3-C-3 全身照射 (TBI)

46。 3-C-4 全リンパ節照射 (TLI)

47。 3-C-5 全脳全脊髄照射 (CSI)

48。 3-C-6 術中照射 (IOR)

49。 3-C-7 小児に対する放射線治療

50。 3-C-8 RI 内用療法

4. 専攻医の
診療実績につ
いて (2)

診療実績について、連携施設との協力の可能性および連動研修*の必要性につきお尋ねいたします。

*連動研修とは、「基本領域の研修で求められる放射線治療の件数に達した後に経験した症例や治療技術を、放射線治療専門研修の治療経験症例や治療技術に含めること」を意味します。

51。 4-1 これまでの貴施設における専攻医の研修において、連携施設と協力して「症例数」の不足を補ったことがありますか。

1つだけマークしてください。

はい

いいえ

52。 4-2 将来の制度において必要とされる「症例数」が不足する場合、連携施設と協力して研修プログラムを計画することは可能でしょうか。

1つだけマークしてください。

既に連携施設とのプログラムが計画されている

今後連携施設との協力を行う予定である

その他: _____

資料6

53. 4-3 連動研修が認められた場合、「症例数」の連動を利用しますか。

1つだけマークしてください。

- 利用する
- 利用しない
- その他: _____

54. 4-4 「症例数」における連動研修の必要性についてのお考えをご記入ください（自由記載）。

55. 4-5 これまでの貴施設における専攻医の研修において、連携施設と協力して「治療技術件数」の不足を補ったことがありますか。

1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ

56. 4-6 将来の制度において必要とされる「治療技術件数」が不足する場合、連携施設と協力して研修プログラムを計画することは可能でしょうか。

1つだけマークしてください。

- 既に連携施設とのプログラムが計画されている
- 今後連携施設との協力を行う予定である
- その他: _____

資料6

57. 4-7 連動研修が認められた場合、「治療技術件数」の連動を利用しますか。

1つだけマークしてください。

利用する

利用しない

その他: _____

58. 4-8「治療技術件数」における連動研修の必要性についてのお考えをご記入ください
(自由記載)。

5. 学
術研
修
(学
会発
表)

専攻医の学会発表について、貴施設にて現状で推定される「発表件数」をお尋ねします。
貴施設にて「放射線治療専門医を目指す専攻医1名が2年間で筆頭にて従来発表されていた平均的な
件数」をおおよその概数で結構ですので回答願います（ほぼ発表がなければ0をご記入ください）。
以下の学会のレベルに分けてご回答ください。

59. 5-1 都道府県内レベル

60. 5-2 地方区分レベル

61. 5-3 全国レベル

62. 5-4 国際レベル

資料 6
6. 学
術研
修
(論
文)

専攻医の論文発表について、貴施設にて現状で推定される「論文数」をお尋ねします。
貴施設にて「放射線治療専門医を目指す専攻医1名が2年間で従来発表されていた平均的な論文数およびその内訳」をおおよその概数で結構ですので回答願います（ほぼ発表がなければ0をご記入ください）。英文、和文に分けてご回答ください。

63. 6-1 専攻医が何らかの形で関与した（筆頭、あるいは共同著者著者となった）論文数（英文）

64. 6-2 6-1でお答え頂いた論文数のうち、専攻医が筆頭著者となった論文数

65. 6-3 6-1でお答え頂いた論文数のうち、査読制度のある論文数

66. 6-4 専攻医が何らかの形で関与した（筆頭、あるいは共同著者著者となった）論文数（和文）

67. 6-5 6-4でお答え頂いた論文数のうち、専攻医が筆頭著者となった論文数

68. 6-6 6-4でお答え頂いた論文数のうち、査読制度のある論文数

7. 放射線治療専門医制度への
ご要望

最後に、今後の放射線治療専門医制度へのご要望をお聞きたいします。

資料 6

69. ご希望をご自由にお書きください。

ご協力頂き有難うございました。

ご回答いただいた内容は入力頂いたメールアドレス宛に送付されます。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム